

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校
〇〇 〇〇

1 日 時 平成25年11月〇日(〇)

2 学年・組 第4学年〇組

3 指導事項

(1) 読むこと

オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

イ(カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。

4 単元名 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう
「世界一美しいぼくの村」 小林 豊

5 言語活動 物語を読み、感想を述べ合うこと。
「物語のポップを作ろう」

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○ 物語を読んで、感じたことや考えたことを明らかにしながら、感想を述べようとしている。	○ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。	○ 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べている。

7 単元について

○ 児童観

本学級の児童は、6月に「走れ」の教材文で、登場人物の気持ちの変化について想像して読み、話し合う学習を行った。場面と場面を関係付けて読むことを意識し、作品の主題にまで考えが広がるように「走れとはだれの言葉なのだろう。」という

テーマを設定し読書会を行った。多くの児童が自分の考えをもち、友だちの意見と比べながら話し合うことができているものの、一人一人の読む力に個人差があるために、話し合いがなかなか進まないグループもあった。また、9月の児童アンケートでは、「読んだ物語について友だちと感想や考えたことを話すのは楽しいですか。」という質問に対して本学級の18名(86%)の児童が肯定的な回答をした。このことから読書会に対して意欲的に取り組んでいることが分かる。

本校では、辞書の利用を習慣付けるとともに、語彙を増やすことを目的とし、3年生以上は国語辞典を手元に常備し、知らない言葉を進んで辞書で引く環境を作っている。本学級の19名(90%)の児童が「分からない言葉は辞書を使って調べていますか。」という質問に対して肯定的回答をした。また普段から国語科に限らず他の教科でもその場で辞書を引くようにしているので、速く意味を調べることができている。これらのことから、辞書を引く習慣はついていると考えられる。しかし、言葉によっては複数ある意味の中から適切な意味を選び抜くことがまだ難しい児童もいる。

○ 単元観

「世界一美しいぼくの村」は、アフガニスタンのパグマンという小さな村を舞台にした物語である。少年ヤモの一日を通して家族愛や郷土愛が描かれている。物語は戦争の影が感じられるが、生き生きと日常を送る人々が描かれている。そのため最後の一文の衝撃は大きく、戦争の悲しさが強く感じられる結末となっている。そこから、ヤモの家族への思いやふるさとへの思いを想像し、交流させることで、一人一人の感じ方が異なることを体験することに適した教材である。

本単元の学習では、「物語のポップを作ろう」を言語活動に設定した。ポップとは物語の書評を書いた小さなカードのことで、物語のあらすじと、読んで感じた思いの両方を短い文章や絵で表現できるものである。またポップにはまだ作品を読んだことがない他者へ物語の良さや世界観を伝えることもできる。物語についてポップに書きたい内容を友だちと比べることで感じ方や考え方の違いを体験することができる。と考える。

○ 指導観

指導に当たっては、初めに主教材文「世界一美しいぼくの村」で、物語について叙述を基に想像しながら読み進め、ポップを作るために物語から考えたことを話し合うことができるようにする。同時に「家族愛」と「郷土愛」がテーマの本を数冊紹介し、その中から1冊選んでポップを作ることを最初に伝えておく。そうすることで、目的をもって読み進めることができると考える。主教材文で学習した物語文を捉える視点やポップ作りの方法を習得し、並行読書の本のポップ作りに活用する

という学習の展開である。

本単元は、物語を読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができることを目標としている。交流においては、本教材から感じ取れる「ふるさとを思う気持ち」、「家族愛」の解釈の仕方を話し合い、互いの考えの相違点や共通点を見つけることができるものにしたい。そのために、まず友だちの考えをふせんにキーワードでメモし、教科書に貼り付けながら話し合う。話し合い後に、もう一度自己の考えを振り返るための時間をしっかり確保して、自分の考えと同じグループと自分の考えと違ったグループの2つに分けて整理するようにする。これらの作業をすることで、改めて友だちの考えと自分の考えを照らし合わせることができるようにしたい。また、話し合うテーマを全体で同一のものにすることで一人一人の考え方の共通点や相違点が明確になるようにする。

グループでの話し合いをスムーズに進めるために、「一人が一つ考えを伝えた後に質問をする」という話し合いの進め方や、「〇〇さんの意見に似ていて」「〇〇さんの意見と少し違って」「〇〇さんの意見に付け加えて」などの話形を丁寧に指導していくことで、子ども同士で言葉をつなぐことができるようにしていきたい。さらに、聞く視点を視覚的に提示することで円滑な話し合いができるように配慮したい。

このように、自己の考えをまとめる「自己内対話」、次にその考えを基に友達と考えを交流する「他者との対話」を通して、自分の考えを広げていくという思考の流れを大切にしたい。

辞書の利用については、分からない言葉があった時にその場で調べさせるようにし、複数の意味がある場合には文脈に最も意味が合うものを選ぶようにさせることで、物語の読む時の理解につなげていきたい。

8 単元の学習と評価の計画（全13時間）

次	時	学 習 活 動 (評価方法)	読書活動	観 点		
				国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
一	1	本のポップを作ることを伝え、学習の見通しをもつ。 並行読書の本を紹介する。(ワークシート, 発言内容)	並 行 読 書	○		
	2	教材文を読み初発の感想を交流する。 (ワークシート)		○		
二	3	全文を読み、あらすじをとらえる。(ワークシート)			○	○
	4 5	ヤモのふるさとの思いを話し合い、ポップを作りクラスで紹介しあう。(ポップ, 発言内容)			○	
	6 (本時) 7	ヤモの家族に対する思いを話し合い、ポップを作りクラスで紹介し合う。(ポップ, 発言内容)			○	
三	8 9	並行読書の中からポップを作りたい1冊を選び、あらすじをとらえる。(ワークシート)			○	○
	10	同じ本を選んだグループで家族愛、またはふるさとの思いをテーマに話し合いをし、ポップを作る。 (ポップ, 発言内容)		○		
	11 12	ポップを完成させ、紹介し合う。 (ワークシート, 発言内容)		○		
	13	これまでの学習を振り返り、学習のまとめをする。 (ワークシート, 評価テスト)	○			

9 本時の目標（二次5時）

- ポップを書くために、登場人物の家族に対する思いについて自分の考えと友だちの考えとを比べながら話し合い、それぞれの作品の捉え方の違いに気付くことができる。

10 学習展開

学 習 活 動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
1 前時の学習を振り返る。 2 本時のめあてを知る。	○ 登場人物のふるさとに対する思いについて話し合ったことを思い出すようにさせる。	
ポップを作るために、家族を思う心について考えを比べながら話し合おう。		
3 登場人物の家族についての思いを物語から想像し話し合う。 ・ 一人学び ・ グループ学び	○ 話し合うことで、よりよいポップにするために話し合うという目的を伝え、交流することに意欲をもたせる。 ○ 登場人物の家族を思う心が表れている部分を書き抜き、登場人物の思いを叙述から想像して書くようにする。 ○ 聞く視点を視覚的に示す。 ・ 友だちはどこを書きぬいたのか。 ・ 友だちはどんなことを考えたのか。 ・ 自分の考えと同じところと違うところを意識する。 ○ 自分の考えと比べやすくするために教科書の中から友だちが選んだところにふせんを貼り、友だちの考えがメモできるようにする。 ○ 友だちの発言をつなげて考えを伝えるようにする。(資料参照)	A：登場人物の家族に対する思いを自分の考えと比べながら交流し、共感したり相違点を考えたりしながらそれぞれの作品の捉え方の違いや、自分の考えの変容に気付くことができる。 B：登場人物の家族に対する思いを自分の考えと比べなが

<p>・ 一人学び</p> <p>4 本時の学習を振り返り，次時の学習内容を確認する</p>	<p>C評価の児童への手立て：話形の書かれた紙を使って話すように言葉かけをする。</p> <p>○ 話し合い後に友だちの考えを書いたふせんをグループ分けし，自分の考えと比較できるようにする。</p> <p>○ 友だちの考えを聞く中で，自分の考えとして取り入れたい部分があれば印をつけるようにする。</p> <p>○ 最初の時と考えが変わったことや友だちの考えと比べて感じたことをふりかえる。</p>	<p>ら交流し，共感したり相違点を考えたりしながらそれぞれの作品の捉え方の違いに気付くことができる。</p> <p>(ワークシート)</p>
--	---	--

11 並行読書に用意した本のリスト

	書名	著者名	出版社	分類
1	おじいちゃんの口笛	ウルフ・スタルク	ほるぷ出版	9 1 3
2	なきすぎてはいけない	内田麟太郎	岩崎書店	9 1 3
3	おばあちゃんのさがしもの	おちとよこ	岩崎書店	9 1 3
4	せなかをとんとん	最上一平	ポプラ社	9 1 3
5	のれたよ、のれたよ、自転車のれたよ	井上美由紀	ポプラ社	9 1 6
6	せかいいちうつくしいぼくの村	小林豊	ポプラ社	9 1 3
7	ぼくの村にサーカスがきた	小林豊	ポプラ社	9 1 3
8	せかいいちうつくしい村へかえる	小林豊	ポプラ社	9 1 3

例

「 \sim 」は「 \sim 」を意味する。したがって、 \sim は「 \sim 」を意味する。

「 \sim 」は「 \sim 」を意味する。したがって、 \sim は「 \sim 」を意味する。